カメラ活用し道路管理を高度化

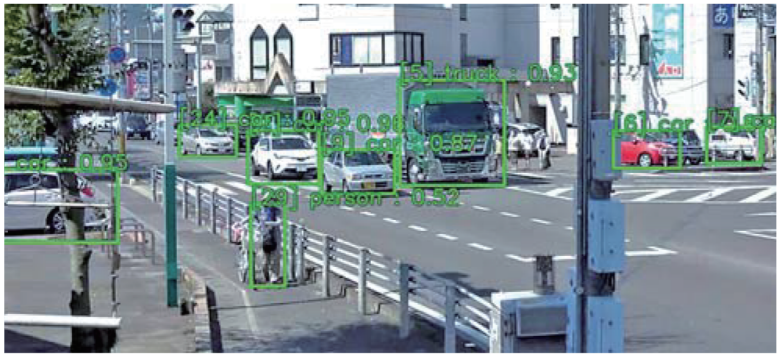
ジツタ中国、中電工、ハイテクインター

測量機などを手掛けるジツタ中国（広島市中区、実田泰之代表取締役）は、中電工（広島市中区、迫谷章社長）、ハイテクインター（東京都渋谷区、旦尾紀人社長）とともに、カメラを活用した道路管理の高度化システムを構築する。カメラ映像を用いた交通量調査に向けた広島県からの受託業務。人工知能（ＡＩ）による交通流を把握する。プライバシー保護ために、顔を検出した箇所にモザイク処理も行う。

同県内の道路に設置された道路管理用カメラ（250台）の映像をＡＩで分析する。交通量調査地点で動画を取得するとともに、道路防災情報システム「ひろしま道路ナビ」と取得映像との連携や、道路監視を行うカメラ映像の情報収集基盤の構築にもつなげる。

交通量調査では映像ファイルをＡＩで処理して、小型車やトラック、バスなどの車両や歩行者を識別する。通過車両数も自動計測する。取得映像のプライバシー処理として、カメラに写った人の顔部分にぼかしを入れる。個人情報保護対策の面からは、プライバシー影響評価ガイドラインに基づくプライバシー影響評価を行い、個人情報漏えいのリスクを管理する。

交差点に設置されたカメラから人流や交通流を計測し、集計結果をクラウドに集める。災害発生時の対応や安全・安心に対応する都市計画の実現に寄与するとしている。



Ａ－処理による車両識別のイメージ

日刊建設工業新聞　2021年7月6日（3）企業面より抜粋